

神学校日礼拝

日本基督教団石神井教会 2026年10月11日

【旧約聖書日課】ダニエル書 3章13～26節

¹³これを聞いたネブカドネツアル王は怒りに燃え、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴを連れて来るよう命じ、この三人は王の前に引き出された。¹⁴王は彼らに言った。

「シャドラク、メシャク、アベド・ネゴ、お前たちがわたしの神に仕えず、わたしの建てた金の像を拝まないというのは本当か。¹⁵今、角笛、横笛、六絃琴、豎琴、十三絃琴、風琴などあらゆる楽器の音楽が聞こえると同時にひれ伏し、わたしの建てた金の像を拝むつもりでいるなら、それでよい。もしも拝まないなら、直ちに燃え盛る炉に投げ込ませる。お前たちをわたしの手から救い出す神があるうか。」

¹⁶シャドラク、メシャク、アベド・ネゴはネブカドネツアル王に答えた。

「このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。¹⁷わたしたちのお仕える神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってください。¹⁸そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建てになった金の像を拝むことも、決していたしません。」

¹⁹ネブカドネツアル王はシャドラク、メシャク、アベド・ネゴに対して血相を変えて怒り、炉をいつもの七倍も熱く燃やすように命じた。²⁰そして兵士の中でも特に強い者に命じて、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴを縛り上げ、燃え盛る炉に投げ込ませた。²¹彼らは上着、下着、帽子、その他の衣服を着けたまま縛られ、燃え盛る炉に投げ込まれた。²²王の命令は厳しく、炉は激しく燃え上がっていたので、噴き出る炎はシャドラク、メシャク、アベド・ネゴを引いて行った男たちをさえ焼き殺した。²³シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人は縛られたまま燃え盛る炉の中に落ち込んで行った。

²⁴間もなく王は驚きの色を見せ、急に立ち上がり、側近たちに尋ねた。

「あの三人の男は、縛ったまま炉に投げ込んだはずではなかったか。」

彼らは答えた。

「王様、そのとおりでございます。」

²⁵王は言った。

「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」

²⁶ネブカドネツアル王は燃え盛る炉の口に近づいて呼びかけた。

「シャドラク、メシャク、アベド・ネゴ、いと高き神に仕える人々よ、出て来なさい。」すると、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴは炉の中から出て来た。

【使徒書日課】使徒言行録 5章27～42節

²⁷彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。²⁸「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」²⁹ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。³⁰わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。³¹神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。³²わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」³³これを聞いた者たちは激しく怒り、使徒たちを殺そうと考えた。³⁴ところが、民衆全体から尊敬されている律法の教師で、ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、³⁵それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いは慎重に下さい。³⁶以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。³⁷その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられた。³⁸そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、³⁹神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」一同はこの意見に従い、⁴⁰使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。⁴¹それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、⁴²毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

【福音書日課】マルコによる福音書 14章53～65節

⁵³人々は、イエスを大祭司のところへ連れて行った。祭司長、長老、律法学者たちが皆、集まって来た。⁵⁴ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで入って、下役たちと一緒に座って、火にあたっていた。⁵⁵祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかった。⁵⁶多くの者がイエスに不利な偽証をしたが、その証言は食い違っていたからである。⁵⁷すると、数人の者が立ち上がって、イエスに不利な偽証をした。⁵⁸「この男が、『わたしは人間の手で造ったこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、わたしたちは聞きました。」⁵⁹しかし、この場合も、彼らの証言は食い違った。⁶⁰そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答

えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」⁶¹
しかし、イエスは黙り続け何もお答えにならなかった。そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。⁶²イエスは言われた。「そうです。」

あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、
天の雲に囲まれて来るのを見る。」

⁶³大祭司は、衣を引き裂きながら言った。「これでもまだ証人が必要だろうか。
⁶⁴諸君は冒涇の言葉を聞いた。どう考えるか。」一同は、死刑にすべきだと決議した。⁶⁵それから、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててみろ」と言い始めた。また、下役たちは、イエスを平手で打った。

説教「神に従う喜び」

説教者 佐藤正幸 神学生（東京神学大学）

神学校日礼拝奉仕神学生プロフィール

佐藤正幸 神学生

東京神学大学大学院神学研究科修士1年（組織神学専攻）

1990年、日本基督教団福井神明教会で受洗（26歳）。

教会学校教師、役員として奉仕。

現在、日本基督教団福井神明教会会員、日本基督教団滝野川教会客員。

教会学校、聖歌隊で奉仕。

田中美香 神学生

東京神学大学神学部3年

日本基督教団巣鴨ときわ教会出席を経て、

1998年、単立教会で受洗（22歳）。

2008年以降、単立・蕨キリストの教会に所属。

現在、日本基督教団代田教会に出席。